



CONTENTS

2016年の抱負 …2 頁

キャロル／菊池春海／山口咲子／レベッカ／UFO／

F・H／安井成雄／Cくん／リネカー／山海珍味／孫悟麺

長崎研修レポート …4 頁

キャロル／山口咲子／堀部正／孫悟麺

韓国研修レポート …12 頁

堀部正／にじいろ

リポートを2本 …16 頁

P. 6000ニトンチスト

病棟転換型居住系施設について…18 頁

堀部正

バシャールの予測アップデート…19 頁

山海珍味

フランス旅行記 …20 頁

リネカー

編集後記 …20 頁

SSKS



ほ
っ
と

「ほっとスペース八王子」ニュース

2016年2月号

151号

定価100円

編集人
Facebook
発行所
郵便振替
E-Mail
HP
FAX
電話

八王子市八幡町一三〇一ふくしまやビル二階
「ほっとスペース八王子」(事務局:堀部正)
042-628-2319
042-620-2786
<http://homepage2.nifty.com/hotspace/>
CXB01672@nifty.ne.jp
00180-8-6365-12「ほっとスペース八王子」
世田谷区砦六二六二二 障害者団体定期刊行物協会
<https://www.facebook.com/hachioji.hotspace>

明るく過す年をむく

キャロル

私の2015年の目標は、「明るく行く」ことです。

「ほっと」が150号になったとき、バックナンバーを見て感想を書く企画があって、そのときに、初心に返るということを思い出しました。

私は現在独り暮らしをしているのですが、最近生活用品がいろいろと壊れてきて、つい先日、テレビも壊れてしまったので、かなり気が滅入（めい）ってしまいました。

ほっとに來れば、多少は気が紛（ま）れまし、少しでも「明るく行く」ことができるかな、とっています。

もう入院はしない

菊池春海

今年一年は余り入院せずに過（す）きたいです。

Mちゃんとの交際も程々にして、携帯TEL代を安くする様に余り無駄な、TELをせずにしたいです。今年の8月に障害者手帳の更新もあるの、なるべく再び2級になる様に診断書を書いてもらう様にしたいと思います。

です。

休日の過ごし方も考えて充実した一年になる様にしたいです。

「ほっと」が続きますように

山口咲子

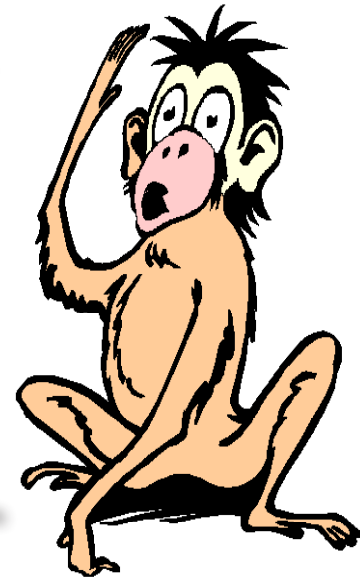
私は、2015年、体調の良くない日が多く、なかなか連日ほっとに通うのが大変でした。2016年も、引き続き体調を整えるところからになります。

余り無理をせず、通える日はなるべく通うようにしたいです。なるべく楽しそうに、参加しやすいようなプログラムから参加していきたいと思っています。何時（いつ）でも通えるように、ほっとが続いてほしいです。

まずは何と言っても減薬

レベッカ

2016年の抱負は、何と言っても、薬を減らすことです。



2016年

新年の抱負

毎日通って

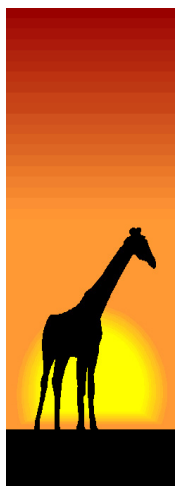
授産を頑張りたい

UFO

2016年は、まずほっとに毎日通うことです。

まだまだ得意なプログラム、苦手なプログラムとあります。

それに、身体上（しんたいじょう）の問題でできないプログラム（特に運動系）もありますが、



なるべく出席したいとは思っています。

前年に引き続き、授産活動は積極的に参加したいです。

作業をするのは得意な方です。ただ、身体上の理由で日帰り旅行など遠出をする行事は余り行けないのは残念ですが、行きたいところもあるの、なるべく体調を整えたいと思います。以上が2016年の抱負です。

今年は癒（い）える年

F・H

昨年（2014年）は、身内に不幸が続き、気分的に落ち込みが大きい年でした。そういったことや、私の個人的な相談したいこともあって、タウンページから福祉関係者を総当たりするつもりでたまたま最初にかけたのがほっとスペース八王子でしたが、電話した時点でもうお世話になろうと思いました。

2015年は、気分を癒（い）す年にしたいと思っていますが、時間はかかるかもしれませんが。

当たり前を、当たり前前に

安井成雄 しげお

昨年までは、なかなか風呂に入るのも難儀なんぎだったのですが、2016年からは、もっと積極的に入浴の回数を増やしたいと思います。2日に1回はひげを剃そり、なるべく毎日歯磨きと頭を洗うようにしたいと思っています。人から見れば当たり前のようなことかもしれないませんが、自分にとっては結構大変なことなんです。それから、毎日早寝早起きを心掛けたいと思います。少なくとも、生活のリズムを取り戻したいからです。

まずは身近な、身の丈たちにあったことをこころがける、それが私の2016年の抱負です。

あくまでスマートに スキルアップ

Cくん

2015年の抱負は、望年会でもお話ししましたが、「スマート」に行きたいと思っています。今までにも、いろいろなことをスマートにこなしてきたつもりですが、まだ別のことでスマートにしたいところです。

また、2015年からボランティアとして、ほっとスペース八王子で聞く会などのプログラムを受け持ちますが、この時間などを使って、ピアカウンセリングなどの技量向上に努めたいと思います。

今年もほっとを 盛り上げます

リネカー

2015年の私の抱負は、一日も休まずにほっとに通う事です。

百馬らーめんの店舗清掃も、一日も休まず頑張りたいと思います。

職員のみなさんと協力して、また他の会員さんと力を合わせてほっとを盛り上げていきたいと思っています。

また、スポーツ教室や、聞く会で为中心的立場となって、頑張りたいと思います。

トンネルの向こうは 明るい未来

2016年の抱負 山海珍味

あけましておめでとうございます。今年もよろしく願います。

さて、この数年間を振り返ると、社会の不透明度・不安度がまして（それも地球規模で）、

新年の抱負

2016年



将来が見えにくい、将来を見通せない「不透明な時代」だという表現がぴったりの感想をもつ

こうした感想を持つ人もけっこう多いのではないかとと思う。昨年

年もさらに社会の不透明度・不安度が増している

と感じている。今年はどうなるだろうか。2016年から2020年にかけてさらにこうした傾向が強まるかもしれない。

しかしである。2020年までに「壊滅的なテロ」と、「チエルノブイリ・

福島に次ぐ炉心溶融ろしんようゆうの原発事故」が予測される中、2016年秋（アメリカ大統領選挙のときですネ）にアメリカで、何かが起きると言う。こう情報発信しているのは、知る人ぞ知る、言わずと知れたBassalバスサルだ。この出来事が将来の地球に芽吹く新しい種まきとなるとの見解をBassalが発信していることにも注目したい。

ほっとの皆さん、そしてほっとニュース2000名の読者の皆さん、さあ、ワクワク100%のポジティブ列車に乗って、チョウウ明るい未来をゲットしようぜ。

心身を休めるか、健康に気を付けて

休まず通うか…

孫悟そんご 麵めん

2016年は、なんとか大病を遠ざけたいと思います。

前年、そのまた前年も入院生活を余儀なくされたので、そういった事態は避けたいと思っています。もっとも、心身は休まるのです。

他の記事との兼ね合いもあるので、2016年の抱負は、これくらいにします。

特集 長崎研修旅行

長崎ちゃんぽんについて

(事前研修)

キャロル

長崎ちゃんぽんは、陳平順^{ちんへいじゅん}が、貧しい中国人留学生に、安くて栄養のあるものを、食べさせようと、野菜くずや肉の切れ端などを炒め、中華麺を入れスープで煮込んだボリウム^{ポリウム}たつぶりの料理をつくりあげ、はじめは「支那^{しな}餛飩^{うどん}」と呼ばれていましたが、のちにちゃんぽんと名づけられたといわれています。長崎皿うどんの材料はちゃんぽんとおなじ。やや甘めのスープに片栗粉でとろみを付けて麺の上にかけたものです。麺は油揚げした細麺と、ちゃんぽん麺を炒めて作る太麺の2種類があり、最初は太麺だったと言われています。

明治の頃、日本のうどん屋で「かけ」



長崎ちゃんぽんの隠れた(?)名店、
天天有^{てんてんいう}のちゃんぽん

や「もり」が十銭であったのにくらべ、中国人の店では野菜や魚介類をふんだんに盛込んで、同じ十銭くらいだったとつたえられるので人気を呼んだのも不思議ではありません。

ちゃんぽんも皿うどんも、長崎の歴史や様々な特徴を取込んで味わい豊かに成長した、長崎ならではの料理と言えます。



長崎研修旅行 レポート

キャロル

二泊三日の長崎研修旅行に、飛行機に乗って行ってきました。

羽田から飛行機に乗って一時間半で長崎に着きます。飲み物は出ましたが、食べ物はありませんでした。窓際ではなかったのですが、身を乗り出して見たら雲が下に見えて「飛行機に乗ってるなあ」と感動しました。

長崎に着いて着陸の時にちょっとガタガタとしたのでびっくりしたけど、無事について、降りる時にはもっと飛行機に乗っていたかったなあと思いました。

長崎空港からホテルまでバスで行きました。孫悟麺さんと同じ部屋でした。それから、荷物を置いて夕食を食べに行きました。ホテルの外の食堂について、みんなで注文してバイキングのよ

うにして食べました。僕はちゃんぽんを食べました。そのちゃんぽんの味は、八王子にもあるチエーン店のリンガー・ハットのちゃんぽんのほうが美味しかったように思いました。

ホテルにまた戻って、孫悟麺さんが先にシャワーを浴びて、続いて僕も浴びて、そのあとテレビを見ているうちに孫悟麺さんは先に寝てしまいました。僕も12時過ぎには寝たと思います。

二日目は、6時半ぐらいに目が覚めて、缶コーヒーを買ってきて、孫悟麺さんと二人で缶コーヒーを飲みました。しばらくして、朝ごはんのバイキングにいき、和食と洋食があったのですが、孫悟麺さんと僕は和食を食べました。

部屋でちょっと雑談してから、ロビ



羽田空港のかき氷。800円也。



寄港中のパナマ船籍超豪華客船、レジェンド・オブ・ザ・シーズが出港するところ

ビーでHさん、堀部所長、Sさんと合流して、ホテルを出ました。

長崎の路面電車に乗りました。長崎では、結構、路面電車に何度も乗りました。長崎は港町だからでしょうか、横浜の山下公園みたいな海の近くにも行きました。そこで、かき氷の屋台があったので、かき氷をみんなで食べました。暑かったので、美味しかったです。

それからまた路面電車に乗って、観光地巡りをしました。美術館とか、グラバー邸、長崎の爆心地にも行きました。爆心地は公園のようになっていました。公園で写真を撮ったりもしました。

二日目の夕食はバイキング形式の店に行きました。お寿司とか、サラダと

か、何でもお代わりして食べました。喫茶店を豪華にしたようなお店で、みんな美味しかったです。

二日目の宿泊は民宿でした。お風呂はでかいお風呂で疲れがとれました。この日は有川理事長と合流しました。男性は5人全員男部屋で一緒でした。Hさんはベッドがあって、いい部屋だったそうです。堀部さんと僕は一番最後までテレビを見て起きていました。先に寝た孫悟麺さんとSさんはいびきがすごかったです。そのすごさは皆さんの想像にお任せしますが、僕は眠れました。

ぐっすり寝て、翌日は6時半ごろ起きてしまって、先に起きた孫悟麺さんと一緒に朝ごはんを食べに行きました。

三日目はデモに参加しました。「安倍はやめろー」とか叫んでいました。僕はそんなに安倍さんは嫌いじゃないんですが、Sさんたちと横断幕を持って歩いて行っただんですが、左隣にいたおばさんが「しっかり持ちなさい」とか「反対側の歩いてくる人に向かって見えるように持つて」とか言っているので、うるさい人だなあと思いました。

暑い日で、陽にあたっていたので、水分補給をして、そのあとは、堀部さんの友達と合流して、車で懐石料理屋

さんに行きました。ところが、そのお店はお休みだったので、懐石料理屋さんが紹介してくれたお店に行っておきました。堀部さんの友達がおこってくれたのですが、「長崎は美味しいものがあっていいですね」なんていう会話をしていました。その堀部さんの友達に空港まで車で送って行ってもらいました。軽自動車だったので、二回に分けて送っていただきました。

たしか空港の喫茶店のようなところでちゃんぽんを食べたのですが、帰りの日に食べたちゃんぽんはリンガー・ハットより美味しかったです。値段も安くて500円ぐらいでした。

お土産をちょこっと買って、飛行機に乗り込んで、また羽田まで一時間半で帰ってきました。行きの飛行機より



長崎の海を見張る巡視船、その名も「でじま」よく見ると、重火器を装備しています。



入り口から見た出島。最終的には江戸時代の出島ほぼ全体を再現するらしいです。

大きな飛行機でした。帰りは夜の便だったので、外は見えませんでした。羽田に着いた時は夜景が見えました。羽田に着いて、八王子まで高速バスに乗りました。孫悟麺さんも同じく八王子まで来たのですが、隣の席に座っていたのは夜の11時ごろでした。旅行パンフレットにも八王子着は11時だったので、予定どおりではあったのですが、八王子について、ほっとしました。あとはアパートまで歩いて帰って、実家にも無事着いたことを電話で報告しました。その日もお風呂に入って、寝たのはたしか2時ごろになってしまったと思います。

この旅行は、行って楽しくて、一生忘れることはできないと思います。

長崎研修旅行 事前研修レポート

山口咲子

前川清まえがわきよしについて

出生名 前川清

出生年 1948年8月19日（66歳）

出身地 長崎県佐世保市松山町出身

学歴 長崎南山高等学校中退

歌手として

1968年、高校2年中退後、長崎市内のキャバレーで歌っていたところを見出され、「内山田洋とクール・ファイブ」にリード・ヴォーカリストとして参加。

1969年2月5日、「長崎は今日も雨だった」でメジャーデビュー。

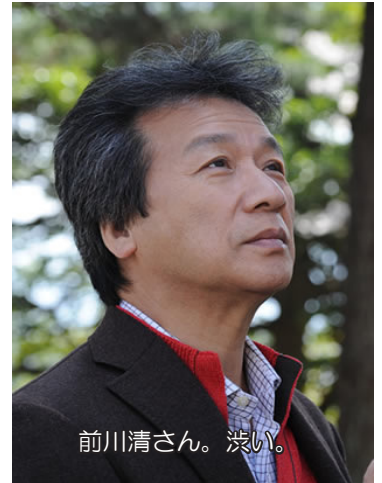
『噂の女』〔1970年〕、「そして、神戸」〔1972年〕、「中の島ブルース」

〔1975年〕、「東京砂漠」〔1976年〕

などヒットナンバーを数多く残した。

喋らないと言った二枚目キャラクター

特集 長崎研修旅行



前川清さん。渋い。

ターだったが、1970年代半ばに萩本欽一が「欽ちゃんのどんとやってみよう！」のレギュラーに起用。二枚目キャラの裏側に隠れていた大ボケな個性を引き出し、お笑いの才能も広く認められるようになった。

1987年、クール・ファイブ脱退によりソロ活動を本格的に開始。

カトリックのクリスチャンで、洗礼名「セバスチャン」を持っている。

自宅の庭に錦鯉育成用プールを作っ

てしまっほどに錦鯉が好きである。

また、競馬好きであり、自身も競走

馬オーナーと知られている。

戦争法案上程中の 8・9ナガサキ

堀部 正

「1」戦後70年の今日、何故戦争法案なのか。

第2次世界大戦は歴代の日本政府にとって明治維新以来のアジア侵略の集大成です。

明治維新政府は江戸幕藩体制を覆し、近代化を台湾、朝鮮を植民地にし、犠牲にすることで果たしてきた。アジアの諸国にとっては近代化を遂げた日本は「アジアの希望の星」ではなく、東アジアを犠牲に成り上がってきた欧米列強の番犬としての認識を持たれてきた。

しかし、第二次世界大戦後、日本は平和憲法を掲げ、平和外交に徹してきた。戦前の誤った日本の在り方を反省し、表面上は朝鮮・韓国とも中国とも国交を回復してきた。更に、戦後、自動車産業、石油化学の発展の中でエネルギー転換が行われ、それまでの石炭から石油にエネルギー資源が転換するに伴って、日本にとって中東の石油の確保は至上命題であった。

石油資源の確保についても、歴代の日本政府は平和外交を中心に欧米（特に英米）の何次にも起きた中東戦争に

関与せず、独自の外交路線で石油資源の確保を講じてきた。

そのことで、中東諸国からも日本に対する平和イメージは確固たるものであった。1975年の石油危機に際しても欧米各国のような中東戦争などの軍事的解決を図るのではなく、イラン革命やイラン・イラク戦争（欧米のイラン封じ込め政策でフセイン政権の力を増大させた）に際しても、ソ連のアフガン侵攻に対する欧米の対抗策（タリバン育成・支援にも関与せず、経済制裁や軍事的な関与もせず、平和外交に徹してきた）

ところが、イラク・フセインが欧米の手から離れ、独走し、クウェート侵攻



国会議事堂。デモの最中とは思えない
静謐なたたずまい。 2015/07/15

を盾に断固拒否すべきだった。
 言ってみれば、安保法制から労働法
 制まであらゆる小泉「改革」が日本を
 解体的状況に陥れはじめた時期に一致
 している。
 そして、イラク戦争での自衛隊の関
 与と続き、今日安倍政権によってさら
 に大々的に欧米の特に米国の中東・世
 界戦略の一角に日本の自衛隊がしっか
 りと位置づけようとしている。この法的

を進めた時の湾岸戦争の際、欧米各国
 は日本に対して「日本はすごい。対岸
 の火事見物をし、火事が収まったら、
 石油利権・利益を享受している」と
 非難轟々。
 しかし、当時の小泉日本政府は歴代
 の日本政府がそうしたように平和憲法



デモ参加者たちののぼりの隊列。

根拠がいま国会で問題にされている戦
 争法案です。

歴代の日本政府が平和憲法の下で集
 団的自衛権は認められない、としてき
 た憲法にたいする考え方を投げ捨て、
 一政権が憲法を変えないで、憲法の精
 神をないがしろにする変更を行おうと
 しているということです。

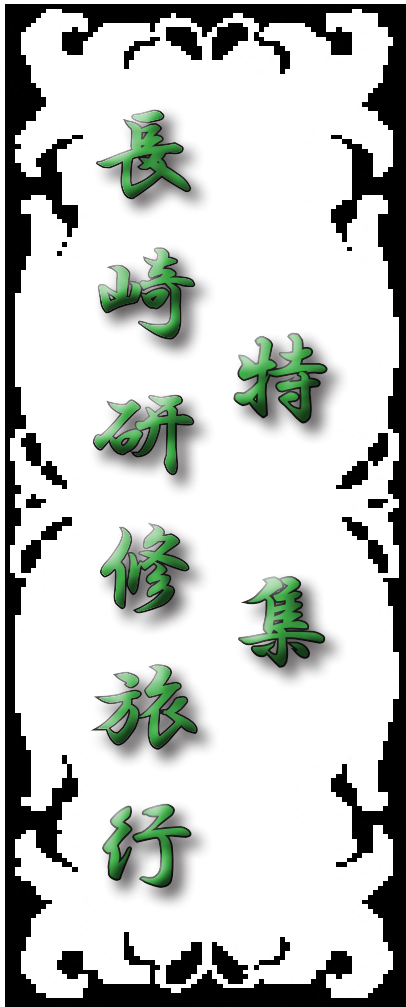
だから、自民党のお抱え憲法学者と
 言われていた長谷川恭男氏も「今回の
 法案は違憲性が高い」と言わざるを得
 ず、歴代の自民党首相経験者もこの戦
 争法案に対して反対の声を上げている
 のです。

戦後70年を迎えた今年に何故、戦争
 法案を必要としているのか。この答え
 は、自民党・公明党の与党が衆議院の
 議席数を2/3以上を占めている現在
 しか憲法を変えずに、この悪法を通過
 させることが出来ないからに他なりま
 せん。

アジア、中東の人々と手を携えて、
 安倍政権が力づくで通そうとしている
 戦争法案を何としても、阻止しなくて
 はいけません。

**『2』 広島・長崎・福電丸・福島原発
 の被爆者、被災者の存在をどう受け止
 めるのか。**

先日の国会参議院での質疑では中谷
 防衛大臣は「後方支援は消耗品の輸送
 を認めている。銃弾も砲弾も消耗品な
 ので、核兵器も含めての輸送も自衛隊
 の任務である」と答えています。8・
 6広島、8・9長崎を目前にしてこの
 ような答弁がまかり通っています。
 鹿児島・川内原発の再稼働は福島原
 発の事故を教訓にしていません。昨日
 の安倍総理の答弁では「木曽御嶽山の
 火山噴火のようなものがあっても、そ
 れ以上の噴火があっても、日本の原発



安全新基準は世界一厳しいものだから
 安全です」と答えた。

木曽御嶽山の爆発で火山学者は、「火
 山爆発予知などの自然現象は残念なが
 ら現在の人類の英知でもはかり知るこ
 とは不可能だ」と述べています。まし
 てや、有史以前の人類が経験した桜島
 爆発、錦江湾カルデラ爆発、阿蘇カル
 デラ爆発など鹿児島川内付近の火山爆
 発の予知は書き記した歴史を人類が
 持っていない以上、何も分らないのが
 現状です。それにも拘らず、第一次
 安倍政権は福島原発事故以前の「全電
 源喪失はあり得ません」と明言した責
 任を負いもせず、先日再び無責任な答
 弁を繰り返しています。

帯電した火山灰は電子機器を容易に
 破壊し、使い物にならなくします。電
 子関連学会でも火山灰の恐ろしさを指



長崎原爆資料館前の原爆殉難教師
 と教えず像前にて一枚。

摘しています。

更に、広島・長崎被爆者、福竜丸乗組員被爆者、福島原発事故被爆者・被災者の被災の苦しみに耳を傾けようではありませんか。世界では日本とアメリカ・旧ソ連核実験での被爆者がいます。被爆者の叫びを原爆資料館ですっかりと受け止め、反核・原発の運動の高まりにほっとスペース八王子として、しっかりと関わっていききたいものです。

『3』アジア・中東・アフリカの民衆と手をつなぎ、アメリカの世界制覇の片棒を担ぐ戦争法案に反対しよう。

以上のように、8・6ヒロシマ、8・9ナガサキはあらゆる世界の人々の注目の中で行われようとしています。平和のシンボル日本がこれからどう変わるのか。今迄通り平和外交を進め、話し合いで物事を決め、確認していくあり方を続けるのか、軍事力を背景に、あるいは軍事力を行使して、欧米列強の意思を押しつける、強制するのか、その転換が行われるのかどうかの大事な取り組みです。

ほっとスペース八王子の長崎研修旅行参加者みんなで、その問いに一人一人が答えるつもりで、研修旅行を実施していただきたいと思います。

長崎研修旅行事前研修

聖人マキシミリアノ・

マリヤ・コルベについて

孫悟題

聖マキシミリアノ・マリヤ・コルベは、本名ライムンド・コルベといい、1894年ポーランドで、5人兄弟の次男として誕生しました。幼いころから信仰心が篤く、特に聖母マリヤに強い信仰心を持っていたそうです。

実家はそれほど裕福だった訳ではなく、ライムンドは家業の織物職人を継ぐことになっていましたが、お使いで行った薬局の主人に気に入られ、進学の援助を得られました。



コルベ神父ゆかりの大浦天主堂。

こうして、1907年に、コンベンツアル聖フランシスコ修道会に入会、現在のウクライナにある初等神学校に入学する事になりました。学校では数学を得意とし、教授からは「学者にもなれたのに」と言われたとか。

1911年、初請願を立て、洗礼名「マキシミリアノ」を与えられました。マキシミリアノは、崇敬するマリヤという名も加え、マキシミリアノ・マリヤ・コルベになりました。1912年にローマへ留学。

修行中の1914年に第1次世界大戦で義勇軍にいた父がロシア軍につき、かなり処刑されてしまいました。しかしマキシミリアノは修学を重ね、1915年グレゴリアン大学から哲学の博士号、1919年に聖ボナベントゥラ大学で神学の博士号を取得しました。在学中の1917年、フリーメーソン（とその支持者）がピウス10世とヴェネディクトゥス15世を非難するデモを見て、「けがれなき聖母の騎士会」に結成を決意しました。また、在学中に結核を患ってしまい、1917年からポーランドに戻りクラクフで神学校の教師となるが、1920年に同国内のザコパネで療養することになります。

翌年、「無原罪の聖母の騎士」とい

特集

長崎研修旅行



原爆。この巨大な爆弾のほんの中心部がプルトニウムです。

う冊子を執筆、発行し拠点ポーランドのグロドノに移します。このころ、日本で一緒に布教活動することになるゼノ・ゼプロフスキー（通称ゼノ神父）と知り合いました。その後グロドノが手狭になったので、ルベツキ公の厚意でワルシャワ郊外に土地を与えられ、1927年、ニエポカラフ修道院（無原罪の聖母の騎士修道会）を設立します。その後、1930年にアジアでの布教を考えます。当初は中国を拠点に考えていたのですが、ローマに留学していた里脇浅次郎に東洋情勢を訊くと、日本行きを勧められ、長崎教区の早坂久之助司教宛ての紹介状を書いてもらいます。

1930年4月にゼノ修道士を含めた5人で長崎に到着、さっそく早坂司



長崎と言えば路面電車。
長崎市民の足。

特集 長崎研修旅行

教に「無原罪の聖母の騎士」の出版許可を申し出ると、早坂司教は、マキシミアノの哲学教師就任を条件に許可。「無原罪の聖母の騎士」日本語版が出版されます。翌年には「聖母の騎士修道院」を設立、1932年にはいったんインドへ布教に出ます。翌年宗教会議のためにポーランドへ帰国、すぐに日本へ戻り、1936年まで日本で活動します。

ポーランドへ帰国後、ワルシャワ近郊のニエボカラノフ修道院に院長として戻り、積極的な活動をしていました。そして1939年にドイツがポーランドに侵攻、占領されると、ニエボカラノフ修道院は病院として接収され、多くの修道士が修道院を去ることを余儀

なくされました。この年9月、マキシミアノは「ナチスの方針にそぐわない」という理由で逮捕されます。そのときは12月に釈放されたのですが、1941年2月、ゲシュタポにより再び逮捕。

マキシミアノはユダヤ人ではありません。にも関わらず逮捕されたのは、ナチスのいうところの「扇動的聖職者」だったからでしょう。その後、アウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所に送られました。囚人番号16670、これが名前の代わりに与えられたのでした。

ここでアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所について簡単に。ナチス・ドイツは、労働力を確保するため、ユダヤ人、ロマ・シンティ（俗称ジプシーと言われる民族）といった「最終解決すべき民族」、ソ連軍捕虜、ポーランド人政治犯やレジスタンス、共産主義者、扇動的聖職者、知識人、教職といった主に政治的収容者、同性愛者、知的、精神障害者、ホームレス、懲役に相当する犯罪者といった社会的収容者を集め、レンガ造りを主とする刑務所を拡大したような強制収容所を造りました。場所は、現在でいうオフィシエンチム市です。



アウシュヴィッツ・ビルケナウ。
絶望のプラットフォーム。

当初、基本的に男性の収容者だけだったのですが、ブジェジンカ村にビルケナウ第2収容所、モノヴィッツに第3収容所が造られるようになると、性別問わず収容され絶滅収容所としての性格も帯びてきます（絶滅収容所とは、特定の民族を文字通り「滅ぼす」ための収容所と言われています）。

移送されてきた被収容者は、民族、性別、年代、職業、思想などなど細かく分類され、処遇にも差があったと言います。

1941年になった初夏のある日、ポーランド人収容者から脱走者が出ました。結局脱走者は捕まらず、当時所長だったルドルフ・フェルディナント・ヘスは大いに怒り、見せしめとして10

人の被収容者を餓死牢に入れる旨伝えました。その10人が選定されたとき、そのうちのポーランド軍軍曹だったフランチェク・ガイオニチェクが、「妻子を置いてここで死ぬことはできない」と嘆きました。マキシミアノは、身代わりを申し出ました。ヘス所長は許可しました。10人全員の身代わりを希望したマキシミアノでしたが、結局身代わりになれたのはガイオニチェクだけでした。

こうしてマキシミアノを含め10人の被収容者は餓死牢へ入れられました。その日から、苦痛のうめきや怨嗟の声は止み、祈りや励まし、讃美歌の音が聞こえるようになりました。最初は注意していた看守も、黙認するようになりました。



強制収容所のバラック群。
とても粗末な造りでした。



太浦天主堂のカテドラルを
外から一枚。室内撮影禁止なので…

それでも食べ物はおろか、水の一滴も与えられない罰は過酷で、1人、また1人と死んでいきます。

2週間が過ぎ、生き残ったのはマキシミリアノを含め4人でした。しかし、ヘス所長が4人を生かしておくことはありませんでした。

薬物注射により、マキシミリアノはついに絶命します。みずから腕を差し出し、壁にもたれるようにして、目を開けたまま殉教しました。その表情は穏やかだったと伝えられています。享年47。1941年8月14日、聖母被昇天の前日のことです。遺体は翌日火葬され、他の収容者の遺灰とともに投棄されたらしく、埋葬場所は確認できません。



コルベ神父殉教を描いた絵画。

マキシミリアノの殉教後1971年10月10日、パウロ6世によって列福1982年10月10日にヨハネ・パウロ2世によって聖人に列せられました。身代わりとなって助けられたガイオニチエクは、解放時まで生き延び、94歳で亡くなるまで、マキシミリアノの行いを伝える講演活動をしていたそうです。

マキシミリアノ・マリア・ 「コルベの日本での足跡」

マキシミリアノが日本で活動したのは1930年から1936年でした。当初、マキシミリアノは中国（当時、中華民国）での布教を考えていたので

すが、「中国は治安の面で問題がある」と忠告がありました。もちろん、マキシミリアノが治安の問題で断念する事はないのですが、助言をした里脇浅次郎は熱心に日本での布教を勧めました。つまり、中国の情勢が安定するまで待機を兼ねて日本で布教したらどうかということでした。日本にコネのないマキシミリアノは、里脇浅次郎に頼んで、当時の長崎教区の早坂久之助司教への紹介状を書いてもらいました。

1930年3月7日、マルセイユを出発、4月11日に上海に到着します。そこで実業家の陸伯鴻と会い、陸は中国布教における資金援助を申し出るのですが、中国での布教は、結局上手くいきませんでした。諦めきれない陸は、1931年来日し、資金援助を申し出ています。（成果については不明）

1930年4月24日長崎についたマキシミリアノは、さっそく早坂司教に「無原罪の聖母の騎士」出版を求めます。早坂司教は、聡明なマキシミリアノに目をつけ、教区内で数学や哲学の教師になつてもらうことで出版を許可します。結果的には1936年の離日までに、修道院や神学校を設立、「無原罪の聖母の騎士」は月刊の冊子となり、今も発行されています。他にはルルド（泉）の発見などもあります。

後事はゼノ・ゼプロフスキー修道士（ゼノ神父は愛称）に託されました。

マキシミリアノ・マリア・

「コルベがもたらしたもの」

マキシミリアノ・マリア・コルベは、結局のところ一人のポーランド人を救っただけのように見えます。見ようによっては、無駄死に、大死にと評する人も居ます。しかしそれは表面的なものにすぎません。一緒に閉じ込められた「仲間」を救い、ともすれば看守をも救い、そして生き残ったガイオニチエク（ガイオニチエクとの表記もあり）が語り部となって多くの人に影響を与え、ローマ・カトリックは彼を聖人に列しました。



食って大事ですね…
五島うどん（とお寿司）。

当のマキシミリアノは、「友のために命を捨てること、これ以上に大きな愛はない」（ヨハネによる福音書15章13節）を実践しただけと案外さらりとしているかもしれません。しかし2週間の飢餓地獄は想像を絶したことでしよう。それだけ信仰に裏打ちされた信念があったからに他なりません。マキシミリアノは、知られているだけで2度の奇蹟を経験しています。1つは幼少のころ、母の回想に拠ると、教会で祈っているうちに赤と白、2つの冠を持った聖母マリアが現れ、「白は純潔、赤は殉教を象徴します。どっちの冠が欲しいですか」と当時のライムンド少年に尋ねます。ライムンドは答えました。「どちらも欲しいです」幼少から聖母マリアのために殉教も厭わな



追悼。
長崎原爆投下から70年に何を思うのか。



爆心地からほど近い浦上天主堂を臨む。

かったマキシミリアノの原点がここにあったと推測されます。もう一つはかなりの時が過ぎて日本でのこと。やはり聖母マリアが降臨され、マキシミリアノの被昇天（天（主、神）の御国へと招かれること）を約束されました。このときの状況は不明ですが、マキシミリアノがポーランドに帰国し、逮捕されると、同僚の修道士を安心させる為に言ったことです。

また、マキシミリアノはナチスの被害者的な視点で語られることも多いのですが、本人がそれを知ったとすれば、それを良しとはしなかったでしょう。騎士といえば、鎧に盾、剣もしくは槍をもって戦います。しかし「聖母の騎士」は、「心をもって武器として戦う」ことを旨としていました。まさに、ア



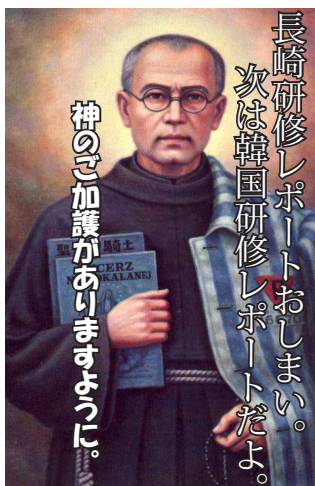
「デモするぞ！」
「でも…」
「デモもストライキもあるか！デモするぞ！」

ウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所で、唯一の武器である心で戦い、ナチスの人をも救おうとしていたのではないのでしょうか。

これからもマキシミリアノの行いは、アウシュヴィッツ・ビルケナウでの出来事にとどまらず、これからも語られ続けるでしょう。

長崎へ行った感想

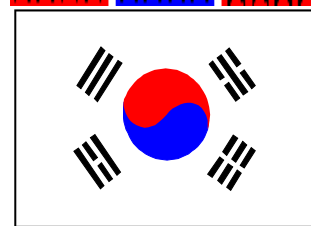
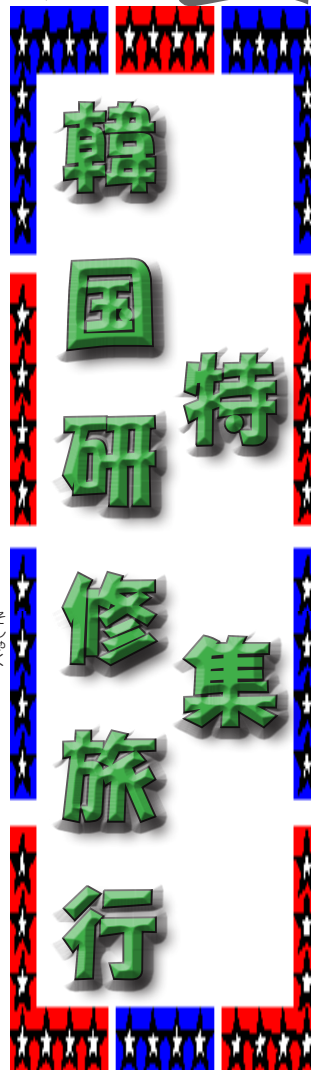
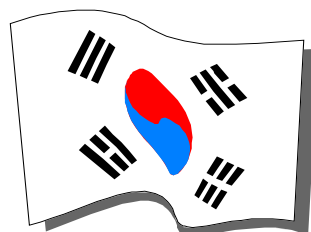
大浦天主堂は、聖コルベ神父ゆかりの教会ですが、もともとは江戸時代に殉教した二十六聖人にささげるために幕末に開かれたものです。明めの室内がトレンドの新教の教会に比べ、重厚で暗い感じのする教会です。大き



い教会ですが、ワンフロアでゆっくり見て廻れる程度です。オルガンらしきもの、説教台、欄間には宗教画、入口に聖母マリア像、正面奥にはステンドグラスとキリストの磔像と典型的なカトリックの教会ではあるのですが、ことなく日本的な感じもします。別館では聖コルベ神父の業績と関連書物が並べられていました。一冊ほしーと思っていたのですが、あまりにも種類が多いので、いずれまた、機会があったらじっくり見て選びたいとは思っています。

聖コルベ神父ゆかりの地といえ、何と言ってもアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所です。今はポーランドのオフィチエンチム市にある記念館ですが、故遠藤周作さんは、当地を訪れ、聖コルベ神父殉教の場所である餓死牢を見たとき、「雷に打たれたような衝撃」を受けたと聞きました。生きているうちにぜひ行きたいところではあります。

感想終わり



2015年9月

韓国研修旅行(事前研修)

「明成皇后暗殺事件」

堀部正

「1」明成皇后の生きた時代

歴史年表の通り、明成皇后の生きた時代は朝鮮のみならずアジア全体にとっても舵取りを間違ったら大変な時代であった。

その時代にあつて、朝鮮全体を日本を含む欧米列強による植民地化から守るために、当時の女性としては信じられないほどの力を発揮して、国内外における政治をこなしてきた。

それを前する大院君の統治した時代も凄まじい時期であった。

大院君はフランス侵略軍との戦いに二度も勝利し、日本の江戸幕府を震撼させたアメリカ艦隊をも撃破した(丙寅洋擾)。日本軍の侵略的な挑発にも巧みにかわしてきた。

韓国研修旅行

しかし、欧米日列強の租借と太平天国の乱、義和団事件等の内乱による宗主国である清国の衰えと同時に清国との同盟では朝鮮の維持が難しくなった。

国内的には大院君の加齢に伴う目に余る老害に明成皇后は辣腕を振るったと思われる。そこで日本、清国、ロシアとの三極外交という際どい外交で朝鮮の維持を図ってきた。

国内における東学党の乱などの反乱を抑えられず、清の力を頼りにするが、結局、日本の東学党鎮圧に名を借りた清への挑発となり戦争となった。アメリカの支えと日英同盟を背景に日清戦争に勝利した日本政府は軍隊を戦場であった朝鮮半島から撤退させずに、そのまま朝鮮半島に駐留させて、その力で砲艦外交を進めた。

砲艦外交で日本の内政干渉が強まる中、フランス艦隊やアメリカ艦隊を撃退した朝鮮の国軍が解体され、武装解除され、経済も日本に牛耳られ、税制も解体された朝鮮政府は軍事的な支

え、財政的な支えも奪われ、日本の総督府の傀儡とされた。しかし、その中でも巧みに朝鮮の独立性を奪われまいとしていた明成皇后は日本の伊藤博文総督には消したい存在であつたろうと思われる。

日清戦争後の軍隊が朝鮮半島に駐留している間に、急ぎよ特使として任命された三浦梧楼特使、大陸浪人たち、日本守備隊らによって明成皇后は暗殺された訳である。暗殺した直後には三浦梧楼は特使の任務を終えたとして解任されている。

「2」日米修好条規と日朝修好条規

所謂黒船来航によって徳川幕藩体制と鎖国は終焉を迎える。徳川幕府主導の近代の幕開けではなく、薩長土肥の下級藩士たちの軍事クーデターの色彩の濃いものになった。力を駆使する野蛮で欧米列強のやり方万国公法という名の欧米列強間のルール強盗規範で世界秩序を整序するものであった。

不平等条約と呼ばれる由縁もそこにある。アジア各国の後発諸国には利が無い欧米列強の都合の良い条約である。それを飲み込まされたのが日米修好条規であり、その後の各列強と結ばれた修好条規である。

それを日本は諸列強の真似をして朝鮮に対して結び、朝鮮から片務的な利益を強奪するという恥知らずなことを行った。

「3」日清、日露戦争の意味

簡単に述べる、日清戦争は朝鮮を宗主国・清の手から奪い植民地化するための戦争。日露戦争はロシアなどの列強からの干渉もはね除けて、朝鮮半島の植民地化を確立し、中国の一部を植民地とする拠点を獲得するための戦争であつたと思えます。



大韓航空の機内食。かなり良さげ。LCCだと機内食が出ないだけになおさら。



ソウルの街並み。
アリンでも聞こえてきそうです。

後に中国東北部、所謂満州国をうち上げる足掛かりを得た。
要するに、19世紀ではイギリスによる中国に対して行ったアヘン戦争、20世紀に入って南アフリカにおけるボーア戦争から始まる諸列強がアジア、アフリカに対して行った植民地獲得のための侵略戦争、植民地争奪戦争（英蘭戦争（1652〜74）でインドをめぐるイギリスとオランダの争奪戦争、第2次英仏百年戦争（1689〜1815）でイギリスとフランスのカナダやインドをめぐる争奪戦争、1585年オランダのスペインからの独立戦争に介入し、イギリスとスペインのカリブ諸島をめぐる争奪戦争、1898年米西戦争はアメリカとスペインの植民地争奪戦争等）である。



「天呼ぶ地呼ぶ、人が呼ぶ。
安重根、ただいま参上つかまつる」
といったたたずまい。

要するに、軍事でもめ事を解決し、国際間の物事を決めるという野蛮な万国公法が用いられ、アジアやアフリカ、新大陸アメリカの既存の文化、考え方、慣習を無視した一方的なやり方で強引に決める考え方が国際法上一般化した。

「4」台湾、朝鮮の植民地化

日本は以上の諸列強の植民地経営、植民地争奪戦にアジアにおける欧米列強の番犬として登場。日英同盟を傘にアジア侵略、アジア植民地支配に躍り出た。

その足がかりが台湾の植民地化であり、朝鮮の植民地化であった。

日本と韓国 戦後の関係について（事前研修）

にじいろ

現在の朝鮮半島にある二つの国の韓国（大韓民国）と北朝鮮（朝鮮民主主義人民共和国）について、この二つの国は戦前までは朝鮮国というた一つの国でありました。朝鮮国は第二次世界大戦中は日本の植民地であり、日本が強引に朝鮮国を統治していました。日本は戦争でアメリカ連合国に敗れて全面降伏をし、日本が敗戦した時に朝鮮半島は北側と南側に真ん中あたりから二つに分断されて、二つの別の国として生きていく運命が決まってしまうました。

北側の国（北朝鮮）はソ連側が占領して共産主義の国家となり、南側の国（韓国）はアメリカ側が占領して民主主義の国家となりました。同じ言葉を話して同じ文化を持った一つの国が全く異なった別々の国となり、別々に生きるという運命が決まってしまうました。それは戦争敗戦国のドイツと同じで、戦争に負けた国としての悲しくも残酷な罰であり、なすすべのない運命でありました。しかし、当の本人の朝



鮮国を統治していた我々日本という国はどうでしょうか、ドイツと比べると国体の壊滅、首都の崩壊などはなく、戦後はアメリカによる緩い処置によって、戦争を起こした自分の国を悔い改めて無いにもかかわらず、いとも簡単に国際社会に復帰できてしまいました。なぜにドイツや朝鮮国とは違い日本だけが苦みの少ない、このようなえこひいき的な処置によって許されたのが問題であります。

その原因の一つが戦後の韓国と北朝鮮いう二つの国にあります。それは戦後その二つに分断された国同士で始まった戦争「朝鮮戦争」が最大の原因であります。

それは北側の北朝鮮が南側の韓国に
対して一方的に仕掛けて始まった戦争
であり、北朝鮮は共産主義の国家であ
ります。アメリカは戦後、民主主義の
国家をアジアに広めるために、まず日
本をそのアジアの中心に位置づける考
えて日本を統治しコントロールをして
いました。この状態の時に朝鮮戦争が
はじまったので、北朝鮮の共産主義の
勢力が最悪は日本にまで及ぶのではな
いかとアメリカは心配しました。この
ため早く日本に国際社会への現役復帰
を求め、とにかくスピードが重視され
たので、結局日本の戦後敗戦国として
の追及や解体はほとんど行われずに、
また戦前に日本を戦争に導き関わった
関係者たちをそのまま使い、新しい日
本の再建に取り掛かることになりました
た。（※国体は護持され、天皇制もそ
のまま残されました）

結局、アメリカが恐れていた北朝鮮
の共産主義の勢力の南下も韓国との一
時休戦という形で幕が降りて、日本に
は影響はありませんでした。逆にその
戦争により、日本はアメリカに沖縄の
土地を差し出し協力したおかげで資金
を得ることが出来、それによって貧し
さから抜け出すきっかけになりました
た、そうして結果的に高度急成長の

波にタイミングよく乗り、急速にして
今までに無いほどの経済大国の地位を
得て、再建を取り戻すことができました
。これはある意味いいこと尽くめで
はありますが、ここで忘れてはならな
いのが、今の日本という国について戦
後の再建は一からではなく、戦前の日
本モデルのチェンジという形で作った
日本なので、その内部のコアの部分に
は戦前の民主主義をあまり信用してい
ない人たちがいたことです。そして、
その人たちの意思は現在の政府の要職
や民間企業の要職に七〇年経った今で
もDNAとして受け継がれているのも
事実です。

また、戦後の復興には沖縄の人たち
の犠牲の上に成り立っていつことも忘
れてはいけません（※平和憲法）

私は今回この韓国研修旅行ではこの
ように日本の戦後の復興に大きく関わ
りあった韓国について関心がありま
す。なので植民地時代の韓国の歴史的
遺産「アンジュングン記念館」「ソデ
ムン刑務所」を見学し、日本が朝鮮国
に対して行ってきた事実を見て回り、
今まで調べた日本と韓国の歴史的な事
実と重ね合わせて、自分の目で戦後の
日本と韓国との関係について見て調べ
考えをまとめたいと思っています。

二〇一五年九月二十二日

日本と韓国 戦後の 関係について その2 研修終了後レポート

にじいろ

今回の韓国研修旅行ではメインテー
マとして、二か所の歴史的に重要な場
所を見学しました。

- ① 大韓帝国末期の民族運動家 安重根
「安重根義士記念館」
- ② a 朝鮮王朝正宮「景福宮」
- ② b 李氏朝鮮の第26代王・高宗の
妃。明成皇后「明成皇后弑害事件」

二か所はどちらも日本の植民地と
なった朝鮮国に関わる人物であり、そ
の日本の強制的な統治に反対し、それ



閔妃（明成皇后）と伝えられる写真。
異説あり。閔妃の侍女の写真という説も。



野心と権力と陰謀渦巻く景福宮
…も、今は昔の話です。

に逆らって抹殺や殺害された二名であ
ります。当時の韓国（朝鮮国）は日本
と比べ国力が弱く、当時アジアの強国
であった日本に力でねじ押しつぶされ
てしまった、弱いがために日本に従っ
た国であります。

研修終了後にそもそも「なぜに日本
は韓国よりも強い国であったか？」に
ついてを考えました。一番大きな理由
として考えられるのは、日本は韓国よ
りもいち早く国家の近代化に成功して
いたからだということです。

十九世紀にイギリスが日本に鎖国を
やめて貿易をするように迫って来た時
に、頑なに守り続けてきたプライドで
ある鎖国制度をやめさっさと貿易をは
じめ、その結果迅速な近代化に繋がっ
たからであります。

その日本が柔軟に従ったと思われる理由を私なりに調べ下記に項目別にまとめました。

一、危機感の違い。

日本人は他のアジア民族に比べて比較的臆病で、またそのため強い危機感を持っている。

二、情報好き

鎖国によって外国との窓を閉ざしながらも、世界の情報はちゃんとアンテナを張って収集していた。

(日本はオランダからイギリスが中国(清朝)をアヘン戦争によって屈服させてしまったことを聞く、そうして清のような大国ですら打ち破る西洋の強さに驚く。)

三、新しもの好き



今までの古い思想や制度について、自ら古くて役に立たないと思えば悔いなく捨てられる身の軽さがあった。

(歴史的・社会的立場に捕らわれないう強さ、先祖から受け継いだ価値観や文化などよりも己を向上させたいという自己愛。というか心の弱さがあった。)

四、真似が上手

西洋の大きな力をありのままに見れる、客観的に見れる素直さがあった。そして負ける喧嘩は決してしない。(敵を知ってこそ己を知り、そして敵を倒せる。)

これらの四項目が私なりに推測したことです。「日本にあって韓国になかった四つ」韓国よりもいち早く近代化へと進めた事柄なのだと思います。

◎まとめ

①日本について望むこと

残酷な話になりますが、当時の世界は力がすべてでした。支配するか、支配されるかの二者択一であります。国家とは(人間とは)純粹であればあるほど強欲な生き物だと思えますし、増殖生存本能というものはだれもが持っていると思います。

たまたま日本は韓国よりも強国だった。それは上で述べたとおりに賢く冷

静だったための判断結果なのであり、もしも日本が弱国であれば中国のようにイギリスに支配され、戦争で国内は荒れて近代化どころではなかったですし、最悪は他国に植民地として支配されていたと思います。つまり当時は国レベルのな力と情報力の格差社会であったと言えます。

現在の日本は経済大国の順位を一つ下げて中国に譲ってしまいました。今後とも力と情報の格差がますます、今はちょうどその節目に日本は漂っているといえます。

今の日本に必要なのはTPPや憲法改正など譲れるものは譲り、相手の懐に飛び込めるぐらいの身軽さが大事なのではないでしょうか？過去の先祖たちが強国にのし上げたその判断能力を見習い、知恵と賢さで今後日本も再び世界に羽ばたいてほしいと願っています。

②韓国について望むこと

韓国は日本に支配や統治されさまざまな国の財産を奪われました。戦争が終わり、敗戦して七〇年経った今でも植民地時代の悲しい歴史は日本の教育に正しく伝えられず、もちろん謝罪の言葉などありません

それは日本はずっと七〇年間アメリカ

力という国の影にずっと隠れ守られ続けてきたからです。

今まではそれでよかったのかもしれませんが、今後は他者の言いなりに過ごしてきて、己自身をなくしたまま生きてきた日本にはもう未来はない気がします。

やっとここで日本の経済は落下し始めていますし、いまこそ韓国も負け続けてきた怨念を晴らす時がきたようなそんな雰囲気があります。(IT産業などの分野にて)

今までもこれからも、国家や経済とはそういうものだと思います。弱者がいてそこから搾取する強者がいる「日本の植民地がなければ韓国に近代化もなかった」この侮辱された言葉を今後韓国は胸に、これから反対に日本に投げかけて欲しいと思います。

韓国に新たな栄光あれ

二〇一五年一〇月二二日



リポートを2本。

成人の日に親子で「石老山」

P・600000トンチスト

1月12日（月）成人の日。母を残し、父と僕の弟と三人で電車を乗り継ぎ石老山へ。「石老山は神奈川県相模原市にある標高702mの山（調べ・ウィキペディア）」とある。高尾山（599m・調べ・ウィキペディア）と比べるとそれほど変わらない高さの石老山と高尾山であった。のぼろうと決意したのは昨日の晩。石老山へ行くまでは楽しそうではあったが、実際のぼってみると慣れ親しんだ高尾山とは違って楽ではなかった。

しかし、相模湖駅からバスを使わずによくもまあ観光のつもりでもあり、登山でもある父と弟の余裕と風格には驚いたものだ。来たからには怪我なく帰りたいものだった。

まず、登山道の坂を上る。車が僕らの後追い抜いていく。立地に生活感があると伺え、人もまばらに出入りする。

坂を上りきるとお寺が見える。顕鏡寺だ。平安時代に源海法師によって建てられた。ただ、僕らは信仰が深いわけではないので、さささとのぼっていった。

山を正しく登るコツがあると弟。「なんだろう？」弟が言うには「のぼるには、幹に赤いテープが目印になっている」と指差す。観察力あるなあと僕は「ただ運動しに来たのではないのだ」と都会との違いを知ろうと思いましたが。

自分に与えた例題を頭に入れつつ、頂上を目指してうねうねとのぼっていくと、霧や雲で霞んだ新宿の高層ビルのおもかげが見えました。「山々から都会が見える景色と、都会から山を見る景色とは、目的物が違うだけで、風景のどこを見たらそれらしくあるのか、見た目で感じる印象が違うのがよく解りました」なので、「山は都会と比べると、整備されるものでなく自然なままです、都会は人工的に姿を変えた変化を

もたらすのだと感じました。僕は何が言いたいのかといいますと、それは、生涯、歴史を作るうえで、山は置いていかれても山は山、都会は東京と名がつく、周辺には合併するような町があること。生活観に取り残されることはあるが、決してこの二つは消えることなく、これからも文化をつないでいくのだと恩恵にあやかりたいと思うのでした」それから、僕らが上ってきた石老山は晴天であった為に、地面はぬれておらず座れるので、ちようどおなかを空かせたので、ここらでお食事を取りました。コンビニで買った赤黄緑鮮やかなサラダとチョコとクリームのミニ・クロワッサン、そして幾分温かいジュシーなハンバーガー。20分もすると汗が引きました。冷えて風邪引くと良くないので、上着を着なおしてまたのぼ



奇岩つらなる石老山の山道。

り始めました。雪道で所々、足跡が残っており、歩道がぬかるんでいました。そっと払いのけるように足をすくっては一歩一歩上りました。顔を上げると頂上が見え、頂上まであと三キロだと標識に目をやりました。「お父さんが、運動靴でなく革靴。足を滑らすことも」ですが、父はたくましかったです。登山経験があるせいかスイスイと上っていく。昭和時代はこうでもなかったという。もっと上りやすかったらしいです。歳のせいかもしれないと思いますが、そうではなく整備されていないようでした。それも、高尾山と比べ、人通りがない。しかも、バスで移動しなくちゃ石老山山口は上れない（ですが、僕らは徒歩で石老山山口まで練り歩きました）。



仏果山から臨む石老山の全景。

いつの間にか八王子にこんなオシャレな建物が。バレーボールや、バスケットボールの試合などが行われるみたいです。



また、木製の椅子と机があり、先方と挨拶し、この方に僕ら親子三人を弟が持参したデジカメで撮っていただきました。僕ら中々、親子で遠出しな

いのも問題ですが、こうやって集まってみると三人健康でよかったなと思いました。

更に進むこと30分。やっと頂上に着きました。景色を見ようにも山々で囲まれていました。段々陽が暮れていき、気分の波も起こり気分が悪くなり父と弟に「これこれだから辛いんだ」と説明して休ませてもらいました。尾根を下っていき少しは楽になるかなんて思っていました。ところが展望台までは良かったのですがそれから先。僕は事故を起こしてしまいました。下り坂

を面白がって勢い余って駆け出してしまい、背を打ちました。死の恐怖を感じさせぬ「若気の至り」です。右ひざを打ち赤くすりむけ、あごとおでこもすりました。さすがに肋骨は打っていないようなので、「兄さん、受身上手だね」いくばかりか冗談だったようでありました。「脊椎骨折しなくて良かった...、今頃車椅子だった」肩掛けのシヨルダーバッグと枯葉のおかげで大きな事故にもなりません。ただ、これ書いてる日も実は、背が痛い。特に重いものを持つとき痛くて辛いです。健康診断でいいから一度医者に見てもらいたいですね。

帰りは負傷者がいたので「僕のみ（笑）」、バスで相模湖行きへ向かいしました。中央本線に乗り込み高尾で自販機のアイス食べて京王線に乗り換え帰りました。自分の身で一生涯、暮らしていくケガには一利もないです。皆さんも、僕みたいなことのないよう、お気をつけください。 END

（この記事は、昨年一月に石老山へ行った会員のレポートです。掲載がちょうど約一年後になってしまいました。寄稿して頂いたP・6000さんには申し訳ないことをしてしまいました。この場でお詫びします。編集部）

新設されたエスフォルタ

アリーナ八王子へ

P・6000リットンチスト

京王線、狹間駅、正午に”安兵衛さん” キャロルさん”そして”P・6000リットンチスト” ほっとの精鋭3名が集いました。

現地は降りてすぐ目と鼻の先でした。新設されたと思われる会場へ吸い込まれた。ただね、どこが入口かわかりませんでした。上っていいやら下っていいやら。とりあえず階段を上ると補錠されており、下ると人通りあるほうへ自然と流れていきました。

入口にたどり着くと、この日は少雨だったので、ビニール長袋を用意されており、「ガチャン、これでよし、と」傘を機械に通しました。

1F。すでに会場は人ごみで賑やかでした。運動靴の試着があり、履こうとしましたが、「誰が履いたのか、わからない」ので興味はあるものの素通りしました。エレベータで客席ある3Fへ。一歩踏み出たら、障害者の売り子さんが商品を前に着席されていた。軽く会釈をしてとりあえず、どんなものか、目視しました。珍しいものがあり、割高だったのでチケット

じゃ買えないと渋ってお茶をにこしました。それでも初見は半分も未確認でした。13時開場。体育館内の大門を開くと「吹奏楽&マーチングバンド」の出演団体のリハーサル中でした。安兵衛さんが大事にしていたビデオを借り、すぐにビデオを会場に回しました。全体を写せばいいのに味気ないと思いつつも多用しました。しかし、リハーサルから公演まで、しばらくして、帰宅中に誤算だったと反省しました。実は一人ひとり映していたので行ったり来たりした画像だったので何がなんだか解らなくなっていました。演技全体が一つの集合体なのに一人ひとり映すのは間違っていました。これも経験でした。

本番。色々ありましたが、片倉高校の演奏、武分方小学校、桜美林大学のチアリーディングの演奏演技は完璧でした。また、障害者の方々もマイクを手を持ちPRされました。

休憩中館内の売り場は人ごみでこた返し、3000円の金券のついたチケットで買えるお目当てのレザーに手を伸ばしました。結果入手出来良かったです。二枚目のチケットで他にも巾着袋を二つ買いました。楽しかったです。来年も参加したいです。

病棟転換型居住系

施設を考える

障害者総合支援法下での 精神病棟転換型居住施設問題

堀部 正

僕らにとって精神病院も障害者総合支援法下での各福祉サービス事業所は同じようなものです。

精神病院のスタッフはじめ福祉サービス事業所のスタッフは僕らの人生に責任を取れるのか、責任を取る覚悟があるのか、という大なる疑問があります。

まず、精神病院については隔離・排除・収容の考え方が根本から無くない限り、最低限の前提がないので安心してお任せできる、信頼できる存在ではありません。

相も変わらぬ排除・収容・隔離主義で僕らと向き合っている限り、僕ら「精神病者」の未来は暗澹たる思いです。

次に、上記障害者総合支援法下で雨後の竹の子のように増殖した福祉サービス事業所についてです。

僕たちには1964年のライシャ

ワー大使刺傷事件で社会から「精神病者」を排除しろ、というキャンペーンが起こりました。東京オリンピックに合わせて路上生活者を刈込み、増殖した精神病院、劣悪な精神病院が一挙に増えました。この時期から始まった精神病院での悪夢的な事態を思い出します。ロボトミー手術、電パチ（ETC手術）、四肢拘束等など虐待の数々、枚挙にいとまがありません。

その悪夢が福祉サービス事業所らによつて再現されようとしているのです。

第一に、僕たちは2009年8月に放置死Ⅱ虐待死させられたほととスパス八王子の仲間のことを忘れません。東京都内、もちろん杉並でも大手のNPO法人が運営するグループホームで起きた放置死Ⅱ虐待死事件です。

この手の事件が貧困ビジネスに群がる福祉サービス事業所で数限りなく埋もれていることを後で聞きました。

1970年代に安保沖縄運動に触発

されて、巻き起こった全国的な障害者当事者による当事者運動はボランティア精神旺盛な若者たち、心あるケースワーカーらを動かしました。そして、東大赤レンガ系、京大ブシ共闘などの運動を背景に良心的な精神科医を大量に生み出しました。

共同作業所運動としてスタートした時点では彼らは今日生起していることが発生するなんて考えてもみなかったでしょう。

東大赤レンガ系、京大ブシ共闘などの良心的な精神科医が精神病院に取り込まれ、理事長、院長などの役職に就き、経営者としての発想を持ち始めた途端、僕ら「精神病者」は営利目的のお客様とされてしまいました。

そして、障害者総合支援法下で経営者としての発想で再スタートした福祉サービス事業所のスタッフらは経営者ないし雇用先としての認識しかない。70年代の時代を知らない若い世代に設立当初の理念をしっかりと継承できているのだろうかと不信感いっぱいになりました。

金になる事業、収益が上がる事業、そして賃金が上がれば良いという発想で業務に就いている若い世代のスタッフで溢れた各事業所が僕たち「精神病者」の人生の友、人生を共に歩むパー

トナー的な存在足りうるかという疑問がわきました。

ほととスパス八王子が障害者総合支援法下で就労継続支援B型事業所として再スタートしたのが、2013年4月。まもなく3年目を迎えます。

そこで理解できたのは、給付費制度の問題性です。給付費率の高いものに事業所が殺到し、僕ら「精神病者」が本当に必要としている事業には見向きもしない、或いは手を抜くという現実がよく分かりました。

問題を抱えた仲間は手がかり過ぎるということで人件費との兼ね合いで採算が合わず、投資効果という経営手法の名のもとに「待機」と称する「置いてきぼり」にされるのです。



最新の精神病棟の保護室（あくまでイメージです）

更に、民間の参入で雨後の竹の子のようにおびただしい数の事業所が生まれています。ボランティア精神など微塵もない、経営者、起業家面した事業所経営者が事業として成り立つと目算して参入してきています。

こういう事業所がグループホームを運営すれば、前述のような放置死・虐待死させられる仲間が増えざるを得ないでしょう。

精神病棟転換型居住施設も大いに問題だが、地域に雨後の竹の子のように増殖した福祉事業所が果たしてその任を担えるのかという疑念は拭い難い。「ファミ」という精神障がい者が地域で生活していくのに支援する全国的な規模の協議会組織の事務局長に前述の杉並のNPO法人の代表がいる。



グループホームのイメージ。
病棟転換型ではどうなるのか。

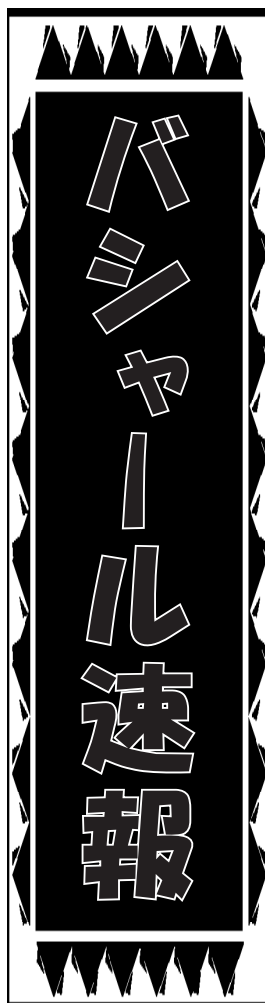
しかも、その組織は雨後の竹の子のように増殖した事業所全体を組織しているわけでもない。にもかかわらず、放置死は起きてしまった。

精神当事者は、何も犯人捜しをしてその人物を糾弾したりするのは、あくまで再発防止のためであり、糾弾が目的ではありません。

目的を言うなら、それはただ地域で共生したい、あるいはただ静かに暮らしていたい、そんなささやかなものです。

しかし現実には、行動する毎に逆風がくることも多くあります。いつの間にかスタッフ・当事者会員という図式が出来上がってしまいました。

だからといって、私たちはただ下を向いて黙って従うという訳には行かないのです。本当の意味での「共生」とは何かという定義の問題はありますが、緩く、浅い繋がりでも一つの共通した目的があれば、またそれが多数であれば、突破口はあると思うのです。まさにそれは、今を於いて他にはないと思っています。



バシヤールの予測が アップデイト!!

山海珍味

2015年12月24日のPlanet of NEBULAさんのブログで、バシヤールの予測が少しだけアップデイトされたとの情報が載せられました。2016年から2020年は、非常に重要な時期ですので、ここで全文を掲載します。

バシヤール：2016～2020年の 予測とアップデイト

2015-12-24 (07:10:35 NE W!)

テーマ：新しい地球のスターシード達へ

全てはエネルギーであり、波動で出ています。そして私達は一定に留まる事なく、常に変化をし、シフトし続けています。バシヤールは話します。ですから、「定まった値」を掴む事が難しいので、これから起こるであろう

出来事を「予測」するのは大変難しい事であると、バシヤールは説明しています。

しかし、波動には「勢い」があると、話します。貴方がずっと考えている事、この場合、貴方の信念という事が言えますが、ずっと考えている事柄にはエネルギーの流れに「勢い」が加わっています。この「勢い」が強く重なる事柄、この部分を読む事で、バシヤールは的確にパーセンテージをはじき出し、物事が起こる確率を「予測」をする事が出来るのです。

9月の下旬に行われたセッションで、今後2017年までに起こるであろう事柄に、多少のアップデイトが加えられました。それは以下となります。これらの起こる出来事の「焦点」は、2016年の秋と定まったとの事です。

98%の確率…地球外生命体の発見。

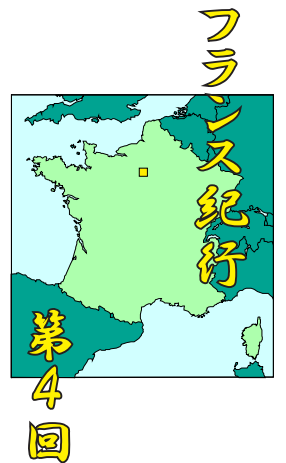
この確率は以前と変わりませんが、時期が少し早まったとの事です。

90%の確率…ギリシャと中国の経済崩壊。もしこれが発足した場合、2016年の秋前後に、大規模な米国の経済崩壊率の可能性が78%。これを期に、新しいシステム導入の法案が出されるようになります。

57%の確率…世界中からレスキュー隊を総動員を余儀なくされる大規模な自然災害が起こる。これを期に、自然界とバランスを取る重要性に気がつきます。↑バシヤールは何処でどんな事が起こる、といった事は言及していません。

100%の確率…ヤイエル文明による大規模なUFO目撃。2017年(ひよっとすると2018年にずれ込む可能性有)の終わりまでに、意外な場所から地球外生命体の存在を認める「ディスクロージャー」が発足します。その以外な存在の一人に、ローマ方法。(→ローマ法王?)

激動の2016年の予感が…。バシヤールからの情報からも目が離せませんね。



モンサンミッシェルまで

リネカー

私はモンサンミッシェルへも行きました。モンサンミッシェルは、陸に浮かぶ孤島でした。世界遺産になっていて、当初修道院として建立されたのですが、一時期監獄(かんく)になって、また再び修道院になったりと歴史のある建物です。

その日は朝から雨が降っていました。お昼頃にやみました。モンサンミッシェルでは昼食にフワフワのオムレツを頂き、とてもおいしかったです。

昼食後に、モンサンミッシェルの頂上まで階段で登りましたが、階段が三五〇段もあり、とてもハードでした。ガイド役の日本人女性も疲れ切っていました。階段を登り終えて、頂上に着くと、雨が止んでいました。

あいにくのくもり空でしたが、何とか頂上からの眺めを楽しむことが出来ました。頂上から景色を見渡すと、雄大なパノラマが広がっていました。左にブルターニュ地方、右にノルマン

ディー地方が見えました。また修道院の中に入りましたが、とても、厳かな、雰囲気でした。

暫くして、下山する事になりましたが、途中で小さなかわいらしい、土産物屋が、けっこうありました。昔は集落だったその場所は、今では通り丸ごとお土産屋さんになっています。

お土産店が様々なモンサンミッシェルに関する商品売っていたので、見物してそこで土産を買いました。

下山して、スパゲティと魚介類の夕食を取り、モンサンミッシェルのふもと近くのホテルに一泊しました。

ホテルに泊まって、翌日、朝食を取り、バスで四時間半かけて、パリ市内に帰りました。



コマルタンオペラという連泊していたパリの中心部のホテルに戻って来た時には、もう日が暮れていました。

さて、夕食をという事でパリ市内の寿司店に入りましたが、いざ寿司を食べてみると、久しぶりの日本食という事で、とてもおいしかったです。

久しぶりの日本食を食べて、満足した後、再びホテルに戻りました。

もう疲れ切っていたので、その日はグッスリ眠りました。

編集後記

▼お待たせ致しました、151号の発行です。今回は、原稿の集まりもよく、かつてないペースでの発行にこぎつけました。これも寄稿してくれたみなさんのおかげです。ありがとうございます。もちろん、読者の皆様の御寄稿も絶賛募集集中です。お願いします。

▼今号編集集中、また一人、元会員のYさんが亡くなったという話を聞きました。次号では昨年行った偲ぶ会の原稿を載せますが、それに加えてYさんのことを書くつもりです。

▼最近増税だ、少子化だ、安保だとか何とかまぶすしい日本ですが、ダメだダメだと言いつつも、なんやかやで日本は滅びないとバシヤールも言ってますし、前向きに行きたいものです。(編集部)